

課題

県学力調査・全国学力調査の結果、学力が高く主体的に学ぶ児童は多いが、発表等、自己表現活動を苦手とする児童が多い。

英語活動と英語環境を充実させた英語教育を通して、自己表現活動を楽しみ、英語好きな児童を育てていく。

具体的な取組と工夫

1 授業等における学習活動の工夫

- (1) 帯活動の継続(発音、英語の歌、Who am I?クイズ)
- (2) Small Talkの取組
- (3) Classroom English の共有と活用(英語で朝の会)
- (4) 連絡帳の英単語書き取り(5・6年生)
- (5) ALTの意図的活用(英語ネイティブ発音矯正等)
- (6) 板書とスライドで学習の流れを提示
- (7) スライドのフラッシュカードで英単語を反復練習
- (8) 既習内容を取り入れたジブリゲームの活用
- (9) 振り返りカードの共有(3～6年生)

2 英語環境の充実

- (1) 英語ルームの環境整備(英語のほめほめ言葉、絵本、単語カード棚)
- (2) 英語の歌動画の共有
- (3) 各学年の学習内容の掲示(3年生以上)
- (4) 校内の環境整備(教室に月、曜日、天気英単語カードの掲示、階段に英単語表示、特別教室に英単語表示)
- (5) 職員集会の教員向けのEnglish Timeの取組
- (6) ブロック別(低・中・高学年、特別支援学級)での授業公開
- (7) 教員の英語指導力向上のための校内研修

3 校種間等の連携

- (1) 初雁中学校との英語研修
- (2) 初雁中学校英語教員による外国語授業
- (3) 東京国際大学教授による英語研修
- (4) 初雁中学校とのオンラインによる英語授業の取組
- (5) 語学指導補助員の活用
- (6) アメリカ現地校との国際交流(クリスマスカード交換)



成果

- 1 授業中の帯活動やフォニックスの取組、朝の会のEnglish Time、連絡帳での英単語の書き取り等、英語活動に多く触れることにより、日常の中で自然に英語を発する児童が増えた。フリートークにも慣れてきた。
- 2 授業の型を共有し、学習の流れをスライドで提示することにより、児童も教師も見通しを持って授業に取り組むことができた。
- 3 掲示物を工夫することにより、英語に興味を持つ児童が増えた。
- 4 ALTと意図的に関わることにより、コミュニケーションの達成感を味わうことができた。
- 5 アメリカ現地校との交流により、児童が楽しみながら英語を活用することができた。
- 6 教員向けのEnglish Timeの取組では、各学年の学習内容を共有したり、スリーヒントクイズ、対話の仕方等を練習したりしたことで、職員間の英語の授業に関する意識が高まった。

課題及び改善案

- 1 フリートークの話題を広げられるように、帯活動を継続し、更に自信を持って、英会話ができるようにする。
- 2 ネイティブスピーカーの発音に触れる機会を増やすために、地域の教育資源の活用を計画していく。
- 3 失敗を恐れず更に自己開示できるように、教師と児童、児童相互で英語で認め合う雰囲気作りを構築していく。